

清流と奇岩と紅葉と——絶妙な秋の調和。

中国地方の川の秋を撮ろうと思った時、すぐに豪溪(岡山県)の名が浮かんだ。奇岩絶壁の岩石美と清流、それに紅葉が調和した景勝の地と聞いていたからだ。

岡山市から高梁川^{たかはしがわ}沿いに北上する。途中、羽柴秀吉の水攻めで有名な備中高梁城址に寄り道し、総社市で高梁川と別れ、榎谷川^{まきだにがわ}に沿って30分ほど走ると豪溪に着いた。豪溪は花崗岩の節理(規則性のある割れ目)が風化し、侵食されてできた渓谷で、春は新緑、秋は紅葉が見事な国指定の名勝地だ。

平日なのに駐車場は紅葉狩りに来た人々で満車だった。観光バスも多い。紅葉真っ盛りの川沿いを歩く。写真を撮る人、絵を描く人、河原でお弁当を開く家族連れなどさまざまに紅葉を楽しんでいる。

深い渓谷に陽が回るのをじっと待ち、さらに雲の切れ間をねらって慌ただしく撮影した。紅葉越しに風化した花崗岩節理が見える。清流が眩しい。

(右上) 倉吉市(鳥取県)から倉吉平野を天神川沿いに遡る。途中、800年以上の歴史があるという三朝温泉を左折し、小鹿川の上流を目指した。どれくらい走ったろうか。谷が深くなり、眼下の清流をコスモスが彩って深山の秋を演出していた。

(右下) 夜明け前、吉井川の河口に近い西大寺(岡山市)に着いた。西大寺は、男たちが宝木を奪い合う2月の奇祭、はだか祭で有名だ。秋冷の中、夜明けを待つ。やがて水鳥たちも目覚め、空は薄紫から青さを増した。吉井川の秋の一日が始まった。

